XPath パッケージ

The XPath Contributors

1. 基本的なコマンド

1.1. パスの組み立て

satysfi-xpath は、端的に言えばパスを表す独自の型である XPath.t 及び未完パスを表す XPath.pre を扱うためのライブラリです。 これらは SAT_YSF_I における path 及び pre-path に対応します。

satysfi-xpath は SAT_YSF_I が持つパス操作コマンドと互換性のあるコマンドをサポートしており、 $opan\ XPath$ とすることにより、 SAT_YSF_I の提供するパス操作コマンドを置き換えることもできます (推奨はしない)。

具体的には、以下のコマンドをサポートします。

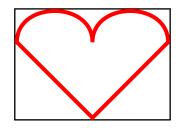
XPath.unite-path : XPath.t -> XPath.t -> XPath.t
XPath.shift-path : point -> XPath.t -> XPath.t
XPath.linear-transform-path : float -> float -> float -> XPath.t
-> XPath.t
XPath.get-path-bbox : XPath.t -> point * point
XPath.start-path : point -> XPath.pre
XPath.line-to : point -> XPath.pre
XPath.bezier-to : point -> point -> XPath.pre
XPath.terminate-path : XPath.pre -> XPath.t
XPath.close-with-line : XPath.pre -> XPath.t
XPath.close-with-bezier : point -> point -> XPath.pre -> XPath.t
XPath.stroke : length -> color -> XPath.t -> graphics
XPath.fill : color -> XPath.t -> graphics
XPath.dashed-stroke : length -> length * length *> color -> XPath.t -> graphics

1.2. 例

以下のコードは、簡単な図形描画の例です。 (SAT_YSF_I) 組み込みのコマンドを使った場合と同様の結果が得られる。)

```
XPath.(
    start-path (0cm, 0cm)
    |> bezier-to (0cm, 1.1cm) (-2cm, 1.1cm) (-2cm, 0cm)
    |> line-to (0cm, -2cm) |> line-to (2cm, 0cm)
    |> close-with-bezier (2cm, 1.1cm) (0cm, 1.1cm)
    |> stroke 3pt (Color.red)
)
```

この出力は以下のようになります。



1.3. 組み込み型との変換

XPath.t, XPath.pre を SATySFI に組み込みの path, pre-path に変換するため、以下のコマンドが用意されています。 *1

```
XPath.to-embedded-path : XPath.t -> path
XPath.to-embedded-prepath : XPath.pre -> pre-path
```

逆に、SATySFI の組み込み型から satysfi-xpath の型に変換する方法はありません。

2. 便利な機能

ここでは、SATySFIの組み込み path 機能にはない、satysfi-xpath 独自の便利な機能

¹ これらのコマンドは通常使用する必要はありませんが、他の path を操作するライブラリ等と連携させる場合に使用できます。

について説明します。

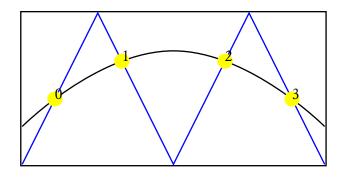
2.1. 交点を求めるコマンド

交点を求める機能として以下が提供されています。

```
XPath.get-intersections : length -> XPath.t -> point list
XPath.get-intersections-with : length -> XPath.pre -> XPath.t -> point
list
```

- get-intersections delta pat… 与えられたパス pat の内部の交点 (point 型) のリストを得ます。delta は精度です。
- get-intersections-with delta ppat pat… 与えられた未完パス ppat がパス pat と 交わる点のリストを得ます。得られる点列は ppat 上で順番になっています。

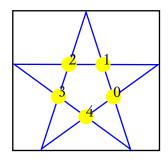
例えば、以下の図は黒線で示されるパス pat 及び青線で示される未完パス ppat が与えられた時に、これらの交点 (黄色) を get-intersections-with コマンドで取得する例です。このとき得られる交点の配列は、未完パス ppat 上での順になっています (わかりやすいように番号を表示しています)。



コードを以下に示します。

```
let pat = XPath.(
    start-path (4cm, -1cm) |> line-to (2cm, 3cm)
    |> line-to (0cm, -1cm) |> line-to (-2cm, 3cm)
    |> line-to (-4cm, -1cm) |> terminate-path
) in
let ppat = XPath.(
    start-path (-4cm, 0cm)
```

一方で get-intersections を用いることにより、パス pat の内部の交点 (すなわち自分自身との交点) を得ることができます。この場合に得られる交点の配列の順番は非自明です。



コードを以下に示します。

```
let pat = XPath.(
    [2.; 4.; 1.; 3.] |> List.fold-left (fun pp r -> (
        let theta = r *. 6.28 /. 5. +. 1.57 in
        pp |> line-to (2cm *' (cos theta), 2cm *' (sin theta))
    )) (start-path (0cm, 2cm)) |> close-with-line
) in
let pts = XPath.get-intersections 0.01cm pat in
let labels = pts |> List.mapi (fun i p -> (
```

```
[
    Gr.circle p 0.2cm |> fill (Color.yellow);
    arabic i |> embed-string |> read-inline ctx |> draw-text p
]
)) |> List.concat in
(pat |> XPath.stroke 1pt (Color.blue))::labels
```

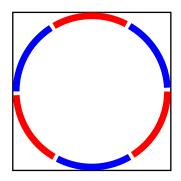
2.2. 長さに関するコマンド

ここでは、曲線の長さを取得したり、点の曲線上における位置を取得したり、長さを用いて曲線を操作するコマンドを紹介します。

```
XPath.get-rough-length : length -> XPath.pre -> length
XPath.get-point-of-len : length -> length -> pre -> point
XPath.get-projection : length -> point -> pre -> point
XPath.get-projection-length : length -> point -> pre -> length
XPath.split : length -> length -> pre -> pre * pre
```

- get-rough-length delta ppat… 与えられた未完パス ppat の長さを得ます。これは厳密なアルゴリズムではなく、精度を delta で指定します。
- get-point-of-len delta len ppat… 与えられた未完パス ppat 上で始点から長さ len の地点を取得します。
- get-projection delta p ppat… 与えられた未完パス ppat 上で与えられた点 p に最も近い点を取得します。
- get-projection-length delta p ppat… 与えられた未完パス ppat 上で与えられた 点 p に最も近い点の位置を表す長さを取得します。
- split delta len ppat… 与えられた未完パス ppat を長さ len の位置で分割します。

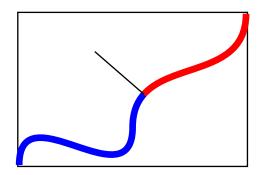
以下の例では、円形の未完パス ppat が与えられた時に、get-rough-length を用いてその長さを取得し、その長さを 6 等分した値を用いて split を用いてパスを分割します。 わかりやすさのために各パス片を青と赤に色分けし、間に隙間をいれています。



この出力は以下のコードで得られます。

```
let ppat = XPath.(
    start-path (-2cm, Opt)
    |> bezier-to (-2cm, 1.1cm) (-1.1cm, 2cm) (0cm, 2cm)
    |> bezier-to (1.1cm, 2cm) (2cm, 1.1cm) (2cm, 0cm)
    |> bezier-to (2cm, -1.1cm) (1.1cm, -2cm) (0cm, -2cm)
    |> bezier-to (-1.1cm, -2cm) (-2cm, -1.1cm) (-2cm, 0pt)
) in
let len = XPath.get-rough-length 0.01cm ppat in
let m = 0.1cm in
let slen = len *' (1. /. 6.) -' m in
let (_, gs) = [0; 1; 2; 3; 4; 5] |> List.fold-right (fun i (acc, gs)
-> (
    let (pp, acc) = acc |> XPath.split 0.01cm slen in
    let (_, acc) = acc |> XPath.split 0.01cm m in
    let clr = if i mod 2 == 0 then Color.red else Color.blue in
    let g = pp |> XPath.terminate-path |> XPath.stroke 5pt clr in
    (acc, g::gs)
)) (ppat, []) in gs
```

get-projection-length を使用した例を示します。下図では与えられた未完パス ppat 上において、特定の点 p から最も近い点の位置を get-projection-length を用いて取得しています。また、get-point-of-len を用いて座標を取得し点 p から直線を引いています。またわかりやすいように未完パス ppat を分割し色分けして表示します。



コードを以下に示します。

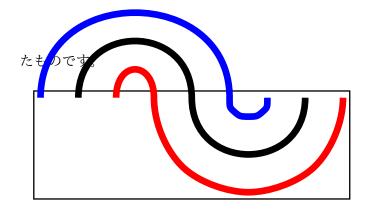
2.3. パスの変形

ここでは、パスの変形に用いるコマンドを説明します。

```
XPath.offset : length -> XPath.pre -> XPath.pre
XPath.offset-path : length -> XPath.t -> XPath.t
```

XPath.offset l ppat 及び XPath.offset-path l pat はそれぞれ未完パス及びパスを与えられた長さ l 分左にずらします。長さとして負の値を指定すると、逆方向にずらします。

以下の図は、黒色のパス pat を 1cm ずらしたパス (青色) 及び -1cm ずらしたパスを描画し



コードを以下に示します。

```
let pat = XPath.(
  start-path (0cm, 0cm)
    |> bezier-to (0cm, 2cm) (3cm, 2cm) (3cm, 0cm)
    |> bezier-to (3cm, -2cm) (6cm, -2cm) (6cm, 0cm)
    |> terminate-path
) in
[
  (pat, Color.black);
  (pat |> XPath.offset-path 1cm, Color.blue);
  (pat |> XPath.offset-path -1cm, Color.red);
] |> List.map (fun (pp, clr) -> (
    pp |> XPath.stroke 5pt clr
))
```

3. 今後追加する機能

以下のような機能を今後追加する予定です。

- SATySFI 標準の gr パッケージに相当する機能
- 与えられたパスを与えられた未完パスを基準に変形する機能
- 与えられたパスのうち、内部のループを削除する機能
- 複数のパスの結合、交差、分割を生成する機能
- パスと点が与えられた時に、点が塗られる部分に属するか判定する機能
- パスと点が与えられた時に、点を取り囲む最小のパスを取得する機能
- パスのアウトライン化する機能
- ASCII 文字に対応するパスを生成する機能